

平和を求めて

39

私の町の戦争跡

港区の戦争跡、海軍養成学校跡、阿波丸殉難者之碑ほか

港区作成の「港区平和関連史跡MAP」が好評です。このマップを手がかりに、いくつかの史跡を訪れてみました。

旧海軍養成学校跡

最初に浜松町の「旧海軍養成学校跡」を訪れました。



「福沢・近藤両翁学塾跡」と刻まれていました(写真上)。ここは一八七一年(明治4)年、当時の六代教育家と称された近藤真琴が福沢諭吉から譲り受けた慶応義塾の敷地に築地の「攻玉塾」を移転しました。

攻玉塾は海軍兵学校の予備校として名を馳せ、一九二五(大正14)年、品川区に移転。現在の品川区の攻玉社中学校・高等学校です。

高木兼寛と森鷗外の脚気論争

港区で海軍といえは、海軍軍医総監だった高木兼寛(たかき・かねひろ)一八四九(一八二〇)が有名です。海軍軍医をつとめ、イギリスにも留学し日本初の医学博士になった人で、



従軍看護婦さんらの慰霊碑

「貧しい病人のための医療施設」として慈恵医大病院の前身である有志共立東京病院を創設(一八八二(明治15年)しました。

高木兼寛は、兵士の間ひろがっていた脚気の原因が栄養不足であることを突き止め、麦飯の導入など兵食を改善しました。

この脚気問題では、「脚気の原因は細菌による感染症」と主張した当時の陸軍軍医の森林太郎(りんたろう)と対立、論争したことは有名です。

日本赤十字本社(虎ノ門四丁目)に「殉職救護員慰霊碑」があります。正門をはいると右側に看護婦立像(写真右)があります。

これは、戦争や災害で救護にあたって犠牲になった救護員を慰霊するもので、従軍看護婦さんなど一、三二六人の「慰芳録」が安置されています。日本赤十字社創立百周年事業として建立され、看護婦像は元東京芸術大学教授菊池一雄氏の

手によって彫塑されたものです。

日赤の戦時救護は西南戦争(明治10年)から第二次世界大戦に至るまで四四、二七三名が殉職され、一、三二七名が殉職しました。第二次大戦では、病院船二隻のうち、一六隻が沈没し、一隻が行方不明(厚生省援護局調べ)となりました。

おみな人うみをこえ行きいたつきの人をまもりぬ弾丸ふるなかに

森末新

阿波丸事件殉難者の碑(増上寺内)

芝増上寺の境内に「阿波丸事件殉難者の碑」(写真左)があります。

終戦も近い一九四五(昭和20)年四月一日、貨客船「阿波丸」がシンガポールから日本にむかう途中の台湾海峡で米海軍の潜水艦クインフィッシュの魚雷攻撃をうけて沈没し、二千余名が犠牲になりました。

阿波丸は連合軍の要請で捕虜への慰問品などの輸送に当たっていたものでした。

当時日本政府は、戦時国際法違反としてアメリカに抗議しました。

この事件は浅田次郎の小説や漫画「ゴルゴ13」の題材にもなりました。

